広報くろさき 12
平成六年十二月一日発行（毎月一日発行）三七五号 発行／黒埼町役場 〒九五〇―二一 新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三―一 電話／〇二五―三七七―三一〇一 編集／企画商工課（担当・広報統計係） 印刷／小野塚印刷㈱ 経費一部五四円

紀行文

アメリカ視察研修報告

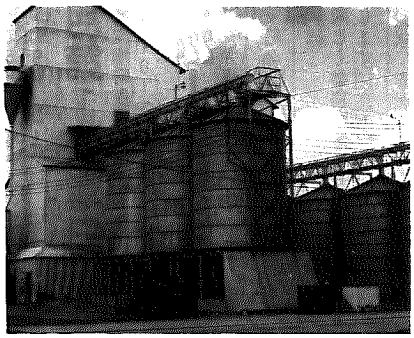
黒埼町議会議長 江端 年一

国際経済社会の中で、国際平和・貢献、技術援助や地球的環境保全対策等を各国や国連が果たす時代が到来している今日、貿易不均衡から、こうした役目が日本に向けられている事は、国内外より情報が伝えているところであります。

日本最後の一線、コメ農業は死守すべきだといわれてきましたが、ガット・ウルグァイ・ラウンド農業交渉の結果、経済摩擦からミニマムアクセス（農産物の最低輸入量）を認めざるを得なかったことは、周知のとおりであります。こうした国際情勢に鑑み、日本のコメ農業を脅かすものは、カリフォルニア米であるとの考え方から、アメリカのカリフォルニア州のコメ事情を知るために、日本人が経営する国府田農場と、その他スーパー・マーケットや宝酒造、そして同州のバークレー市は米国で最も進んだ障害者福祉のモデル地域であることから、身体障害者自立センターを視察しました。当町議会が、十月三日から一週間にわたって初めて国際化に触れてきた、その一端を報告いたします。

カリフォルニアはアメリカ西海岸と内陸は四千メートル級のシラネバダ山脈に囲まれた平原で、日本の一・一倍もの面積を有する全米第一位の農業県（州）であります。

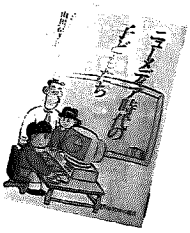
気温は、農業の中心地フレズノ郡で気温の高い八月で、月平均最高気温が三十六・六度、最低気温が十七・八度、降雨量は年間二百七十ミリで東京の五分の一以下、農作物の成育期間の四月から十月に掛けて殆ど雨がなく、一日の気温の較差が大きく日照時間が長い。水さえあれば農作物には最適の条件だということであります。


国府田農場のライスコンビナート

国府田農場は、サンフランシスコから高速道路を百キロ以上のスピードで三時間、広大な平原の中に所々に現れる大規模な綿畑や果樹畑や野菜畑の流れる風景を眺めていると、やがてライス・コンビナートが見え、大型トラクターが並ぶ数棟の舎屋がそれで、この地点から見渡せど農家らしき建物は他には見えない。四十年間総支配人として稲作を担当してきた鯨岡氏の説明によると、農場の経営者国府田氏は福島県に生まれ大正時代に渡米、灌漑水田を開き、昭和初期には飛行機による直播きの成功など稲作の改善に努められた。現在二世の後継者、エドワード・コーダ氏が経営している。経営規模は二千八百ha、作付け内容は例年で米作二千から二千二百ha、畑は綿、大麦など六百から八百haを耕作している大規模農場だ。耕作に必要な水は四社の水会社から買う。土地が余っているので休耕や別用地に作付けする農業経営ができる。カリフォルニアの農家戸数は約八万一千戸、農用地面積は千二百十万ha、農作物は二百五十種以上を栽培しており、日本へはコメ以外の作物を二十八％と突出して輸出している。作物の販売額の一位が牛乳製品、二位ぶどう、三位牛肉……、十八位がコメの二百十九万ドルで、全体の一・二％を占める程度で、全農家の約一％がコメ農家にすぎない。近年アメリカにおけるコメは国内消費量が生産量の六十％を占め、さらに消費は伸びている。そのうえ市街地の人口増加と干ばつ傾向による水不足から、農業も先細りの感がある。政府がアメリカ農業の現状を把握していれば輸入は認めなくてもよかったのではないか、と感想を述べておられた。

（続く）

ほんの一冊



「ニューメディア時代の子どもたち」
子安増生・山田富美雄編
ゆうひかく選書 1994

ニューメディアの子供への影響について、12人の著者による入門書である。もたらす変化・遊び・学びの3部12章からなり、参考文献・引用文献・索引もあり、現在の子供のメディア環境に不安と問題意識を持つ人には、格好の書といえる。日本心理学会と日本発達心理学会のワークショップを発端に、実際の調査に基づき、冷静に客観的に現状を把握し、現代に生まれた子供たちと私たちおとなとの関わり方に何らかの示唆を与えてくれる。子供のファミコンに頭を悩ます人にはお薦め。読みやすいです。図書館にあります。

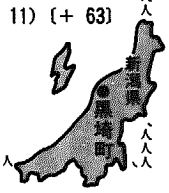
（中山佳奈恵）

〈人の動き〉

10月末日現在		（前月比）	〔前年同日比〕
人口	24,042	（＋ 15）	〔＋ 46〕
男	11,792	（＋ 7）	〔＋ 18〕
女	12,250	（＋ 8）	〔＋ 28〕
世帯	6,739	（＋ 11）	〔＋ 63〕

10月1日～末日

出生	17	転入	73
婚姻	32	転出	62
死亡	14		



▼先日、日本広報協会の主催する「第八十三回広報セミナー」に参加してきました。広報の初任担当者を対象に行われ、会場は、あの幕張メッセで有名な千葉県千葉市の幕張。広報写真やレイアウト、文章表現の仕方、広報企画のたて方など、みっちり（？）と研修してきましたが、講師の一人稲垣吉彦さん（文教大学教授、元NHKアナウンサー、プロデューサーなど歴任）が、「広報の文章、特にお知らせ記事を書く場合は、担当課からの原稿をそのまま載せるのではなく、できるだけわかりやすい文章に噛みくだく必要がある。また、行政側が知らせたい事と住民の方が知りたい事は必ずしも一致しない場合があるので、住民側に立って文章を書くべき」との、話がありました。これは稲垣さんだけでなく、多くの歴代広報担当者が言っている基本事項ですが、広報をより読みやすいものにするためには、もう一度考えなければ、と感じました。

◎さて、来月号は新年号となりますが、表紙をカラーページにする予定です。また、町功労者などをお伝えする予定です。▼人のコーナーは都合により休載いたします。

高齢福祉と健康な生活あれこれ
高齢福祉と健康な生活について町の担当者と清水善夫先生のお話を聞きます。日12月14日(水)午後1時30分～ 場北部地区公民館 参会費は無料ですが、会場準備のため希望者は同公民館（☎232―0077）へ

編集室